

With

東北大学病院
地域医療連携センター通信

第18号
2010.11

CONTENTS

- 1…… 第4回市民公開講座を開催しました
- 2…… 産業衛生外来開設のご案内
- 3…… 低出力体外衝撃波治療高度医療承認
- 4…… 東北大学クリニカル・スキルスラボのご紹介
- 5…… 栄養管理室「ちょこっと食」のご紹介
 コーヒーブレイク
- 6…… たなばたコンサートが開催されました!
 地域医療連携センター勉強会
- 7…… 感染管理認定看護師のご紹介
 緩和医療講演会が開催されました!
- 8…… 新患日一覧
 完全予約制のお知らせ



人にやさしく未来をみつめる

東北大学病院

〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1番1号
TEL 022(717)7000(代)

地域医療連携センター

TEL 022(717)7131(直通)
FAX 022(717)7132

★ SPECIAL

～第4回東北大学病院市民公開講座を開催しました～

去る7月17日(土)、仙台国際センター大ホールを会場に「第4回東北大学市民公開講座・身近な肺の病気からあなたを守る～東北大学病院の取り組み～」を開催しました。

市民公開講座は「一般市民に本院の診療内容を広く公開し理解と支援を得ることにより、地域医療連携意識を啓発し機能分化の促進につなげること、および市民の理解と支援を得てより高度な医療を展開し、研究・教育に反映すること」を目的としています。

今回は肺の病気をテーマに、ポスター・チラシなどで参加を呼びかけたところ、県内はもちろん、県外(埼玉・静岡・名古屋)からも1000人を超える多数の申し込みがあり

ました。

第1部は、本院医師5名による基調講演、第2部は登山家の田部井淳子さんをお迎えし「私の呼吸法」として特別講演が行われました。また、別会場に健康相談や肺年齢コーナー、血中酸素測定、標高2500m低酸素体験コーナーなどイベントコーナーを設け、たくさんの方々が訪れ大変好評でした。病院HPでも講演の動画が配信されておりますのでぜひご覧ください。

今後も年に2回(夏・秋)開催予定ですので、ぜひ参加ください。



講演する田部井淳子氏



パネルディスカッションの様子

産業衛生外来開設のご案内

産業衛生外来 黒澤 一 先生

この10月より、東北大学病院に新しい専門外来、「産業衛生外来」が、開設されることになりました。水、金曜の午後、総合診療外来のある場所で予約制の診療を行います。全国にもまだ少ないこともあって、耳慣れない名称の外来かもしれません。簡単にご案内したいと思います。



本外来は、東北大学の産業医(環境・安全推進センター労働安全衛生室)である医師3名で担当いたします。私どもは平成16年度に東北大学が独立法人化して以来、学内全職員の健康管理や学内の全職場の安全衛生の管理に関する職務を行ってきております。

産業医は個々の病気の診療を必ずしもするわけではありませんが、病気の要因と職場環境や作業内容を検討し、疾病の再発を含めた予防措置について事業者に意見を申し述べる立場です。50人以上の従業員がいる事業場では、必ず産業医を選任するように法律で定められているところです。しかしながら、時代の流れの中、企業や職場、あるいは労働者の形態が多様化しており、これまでの工場を基本にしたような産業衛生のシステムが機能しているとは必ずしも言えない状況になってきております。

このような中、私どもは、学内のみならず、広い意味で産業医的な診療の窓口が一般に開かれていることに、意義があるのではと考えました。医療機関の先生方におかれましては、日常診療の中で産業医がいれば相談したい、職場の特殊検診で異常が出て受診してきたがどのように指導をすればよいのか、職場で喫煙対策をしたいが個々の症例にどのように対応したらよいか、などの症例があれば、どうかご紹介をいただきたいと存じます。また、すでに産業医でご活躍の先生方にも、私どもの経験はまだ浅いものではございますが、お役にたてるような症例がございましたら、ご紹介いただけますと幸いです。私ども東北大学産業医は、果たすべき大学の役割を十分に踏まえ、地域の医療、産業、および産業衛生の発展になんらかの寄与を願うものです。

本外来がお受けするご紹介への対応ですが、以下の場合を想定しております。尚、大学病院は特定機能病院ですので、紹介元の施設の条件によっては初診料が

高くなることがあります。事前にご確認いただければ幸いです。

1. 診療中の病気が職業(あるいは職場)に関連したもの、あるいはその疑いがある場合。

いかなる場合でも、何らかの症状があり、治療すべき点がある症例では、私どもが関与する以前に、一般の治療を優先させていただきたいと考えております。ただ、その中で、広い意味で産業医的な対応が望ましい場合がございますら、ご紹介いただけたらと存じます。産業衛生的な見地から何かお役に立てることがあるかどうか検討させていただきたいと思っております。産業医の先生からの専門的なご相談に対しても、貴重なご症例をご紹介いただくことを通して、共同で対策を検討させていただきたいと考えております。

2. 特殊健康診断において、異常が認められた場合

有害物質を取り扱う方や、リスクの高い作業を行う方に対しては、一般の健康診断のほかに種々の特殊健康診断を行うことが法令で定められています。特殊健康診断は、一般健康診断とは違い、より産業衛生的なアプローチを必要とします。じん肺や石綿などでは、既存の窓口も整備されておりますが、特殊健康診断にわたり、私どもの産業医的な判断や指導がお役にたてる症例がございましたらご紹介いただければ幸いです。

3. その他

上記にあげた場合のほかにも、一般的な診療を日常的に行っている先生方や実際に企業などの産業医をお勤めの先生の中には、労働者の健康管理について悩まれている事項がとおりになるかもしれません。労働衛生行政の立場からは、産業保健センターが地域にあり、窓口になっておりますのでそちらをご利用いただきたいと思います。私どもといたしましては、産業衛生のうち医学的な面が強いと思われることであれば、上記以外でもご紹介をいただければ可能な限り対応させていただきますと考えております。

最近、禁煙に関しては注目を浴びている診療分野です。従業員の健康維持、職場環境の改善などの観点で必要な症例に対しては禁煙治療にも対応いたします。ご紹介をお待ちしております。

お問い合わせ先

産業医学分野医局
Tel: 022-717-7160

＋SERIES / 診療科のご紹介

狭心症に対する新しい治療法「低出力体外衝撃波治療」が高度医療に承認されました

循環器内科 伊藤 健太 先生

東北大学病院循環器内科では、衝撃波を用いた新しい血管新生療法である「低出力体外衝撃波治療」の開発を進めてきました。

このたび、狭心症に対する低出力体外衝撃波治療が、7月1日付で厚生労働省の高度医療(第3項先進医療)に承認されました。

開発の背景

我が国では、人口の高齢化や生活の欧米化により、狭心症や急性心筋梗塞などの虚血性心疾患の患者数が増加してきています。これらの疾患に対して、①薬物療法、②カテーテル治療(風船やステントを用いて血管を拡げる治療)、③冠動脈バイパス手術が行われていますが、これらの標準的治療では治すことが難しい重症患者さんも増えてきており、新しい治療法の開発が望まれています。

低出力体外衝撃波治療とは

体外衝撃波治療は、衝撃波を体表面から体内の組織に照射する治療法で、泌尿器科領域では20年以上前から尿路結石破碎治療に広く用いられています。私たちは、基礎研究により、結石破碎治療に用いる衝撃波の10分の1という非常に弱い出力の衝撃波を虚血心筋に照射すると、その部位の毛細血管数が増加して、心筋の血流や収縮が改善することを発見しました。そこで、倫理委員会承認のもと臨床試験をおこない、有効性・安全性を確認しました(図1、2)。具体的には、今までに治療を行った18例全例で狭心症症状の改善を認めました。また、治療に伴う合併症は認めませんでした。患者さんの体への負担が少ない治療であることから、必要があれば繰り返し行うことも可能です。

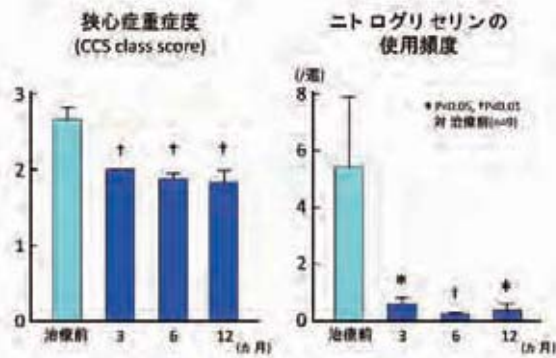


図1. 衝撃波治療による自覚症状の改善。衝撃波治療により、狭心症重症度は改善し、ニトログリセリンの使用を必要とする狭心症発作の頻度も減少しています。

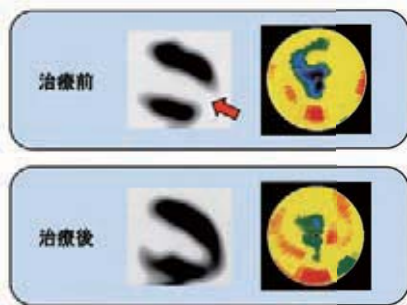


図2. 衝撃波治療による心筋血流の改善。負荷心筋シンチグラムで血流を評価すると、心筋血流が低下していた部位(左上図の矢印の部位、および、右上図の青で示された部位)は、治療1ヵ月後にはほぼ正常化しています。

対象症例

十分な薬物治療を受けているにもかかわらず胸痛発作が起こる狭心症患者さんのうち、カテーテル治療やバイパス手術では十分に治療できないような患者さんが対象になります。ただし、心不全が安定していない患者さん、ペースメーカーや人工弁置換術(機械弁)を受けている患者さんなどは、対象外になります。また、癌などの悪性腫瘍に対する手術を受けてから5年以内の患者さんも対象外となります。

治療方法(図3)

仰向けに寝た患者さんの胸に衝撃波発生装置を当て、治療装置に内蔵された超音波検査装置で心臓を観察しながら、虚血部位に照準を合わせて低出力の衝撃波を照射します。1回の治療時間は約3時間。苦痛を伴うような痛みはないので麻酔は不要です。治療の効果を評価するため、衝撃波治療前と治療3ヵ月後に、運動負荷心電図検査、負荷シンチグラム検査、MRI検査などを受けていただきます。

衝撃波治療にかかる費用は3回の治療(1クール)で26万5500円(全額自費)となりますが、衝撃波治療以外の検査・入院費用は保険診療(通常3割負担)となります。



図3. 治療風景

高度医療とは

薬事法で承認されていない医薬品や医療機器を使用して行う先進的な医療技術のうち、一定の要件の下に行われるものについて、保険診療と併用できる制度です。

低出力体外衝撃波治療により、狭心症患者さんの生命予後・生活の質の改善が期待され、医学的意義は極めて大きいと考えられます。現在、東北大学病院では、狭心症のほかに、急性心筋梗塞や下肢閉塞性動脈硬化症を対象にした臨床試験もおこなっており、本治療の幅広い疾患への応用が期待されています。

本治療法の対象となりそうな患者さんがいらっしゃいましたら、お気軽に下記までご相談ください。

お問い合わせ先

東北大学病院 循環器内科
 下川 宏明(循環器病態学分野 教授)
 伊藤 健太(循環器先端医療開発学講座 准教授)
 Tel: 022-717-7153(循環器内科医局)
 Fax: 022-717-7156
 E-mail: cswt@cardio.med.tohoku.ac.jp

体外衝撃波治療のホームページ

<http://www.cardio.med.tohoku.ac.jp/shockwave/index.html>

クリニカル・スキルスラボの活動について

卒後研修センター 門馬 靖武 先生
松田 綾音 先生

クリニカル・スキルスラボとは、シミュレーターなどを利用した実際の医療現場を模した疑似環境で、医学部学生・医師・看護師・コメディカルスタッフ等が臨床技能を安全かつ効果的に学ぶことができる施設です。臨床現場を反復して再現でき、臨床技能のレベルを上げるとともに学習へのモチベーションを高める効果もあります。さらには、円滑なチーム医療の実践を目指してチームワークを強化させる目的などでも利用されます。その教育的有効性は非常に高いことが知られており、職域を越えた多職種にわたる医療者の教育の場として広く活用されています。

当院のスキルスラボは、2003年に開設されました。2度の移転を経て、2009年には専任教員が配属され利便性の向上を図り、多くの方に利用していただけるよう努力をしています。今年度は利用者のニーズを模索するために、院内職員約2000名を対象としたアンケート調査を行いました。その結果から、今後は特にスキルスラボの広報ならびに講習会の企画をより一層促進させる必要性が明らかになりました。

今後2012年にはスキルスラボが良陵会館へ移転するのをきっかけとして、地域で活躍する医療者の皆さまにも利用して頂くことを検討しています。例えば北欧では、人口100万人に1か所の割合で施設が整備され、地域全体として医療技術のスキルアップが目指されています。日本でも一部のスキルスラボは地域や系列病院などに開放され、災害訓練や救命訓練をはじめとしたトレーニングのために利用されています。このような状況を伺っても、本施設を活用していくことの社会的意義は大きいと思われる、今後も積極的に地域医療連携を促進させるような整備を進めていきたいと考えます。

2010年に東北大学クリニカル・スキルスラボのホームページが公開されました。ここでは、スキルスラボに関する基本情報から利用方法、活動実績に至るまでの情報がございます。ぜひ一度、アクセスしてみてください。

東北大学クリニカル・スキルスラボ

URL : <http://www.csl.med.tohoku.ac.jp/>

お問い合わせ先

東北大学病院 卒後研修センター

022-717-7765(Tel)

022-717-7143(Fax)



呼吸音聴診シミュレーター



吸引操作のシミュレーター



中心静脈穿刺のシミュレーター

◀ INFORMATION / 栄養管理室「ちょこっと食」のご紹介

「ちょこっと食」について

栄養管理室 岡本 智子 室長

今回ご紹介する「ちょこっと食」は、化学療法や放射線治療などにより極度に食欲が低下した患者様に少しでも(ちょこっとでも)食べてもらいたい、という思いで作った食種です。

現在当院には481種類もの食種がありますが、「ちょこっと食」はそれでも食べられない患者さんに管理栄養士が直接聞き取りを行い対応してきた「個人対応食」を基にまとめたもので、お茶漬け、ミニカレー、いなり寿司、即席ヌードル、たこ焼き、果物などを組み合わせ7種類あります。

いわゆる病院食のイメージとはかけ離れている印象を持たれるかもしれませんが、「量が多くて見たただけでお腹がいっぱいになる」、「吐き気がひどいけれど、さっぱりしたものや果物なら食べられそう」、「味のしっかりしたものが食べたい」といった患者さんの生の声を最大限に生かした内容となっています。

さらに患者さんがその日の気分によって食べたい食事を選ぶ事ができるよう、各病棟に栄養価や写真の入ったカラーパンフレットを掲示しています。

栄養管理室ではこれまでも患者さんのご意見を参考に「粘膜保護食」を食種化するなど、食事摂取状況から問題点

を読み取り、分量の変更や味付け、形態の工夫等を行って参りました。今後も患者さんに少しでも召し上がっていただけるような、食事の楽しさや大切さを感じていただけるような取り組みを行いながら、栄養状態改善の手助けができればと思います。



～高度救命救急センターのリアルな毎日をお届けします～

* コーヒーブレイク その18



こんにちは！
東北大学病院高度救命救急センターの浅沼です。
そろそろここでの仕事も慣れてきて、毎日楽しく働いています。

皆さんは誰か目の前で人が倒れたのを見たことがあるでしょうか？お酒によって倒れるとか、貧血とかよくあると思いますが、急に他人が倒れると慌ててしまうものですよね。救命救急センターにはそのような突然倒れ、しかも心肺停止になって搬送される人がよくいます。そのような人がいたときにとっても大事なのが、倒れたその場で心肺蘇生が行われていたか、です。家族や友人によって心肺蘇生措置が行われていた人は、ずっと助かる頻度が高くなります。

また、心肺停止になると、心臓がまた動き始めても半分以上は低酸素脳症という脳死や脳の障害を遺してしまうことが多いと知りました。少しでも早く心臓

マッサージなどが出来ていたら助かった命もあっただろうし、脳の障害を遺さなくて済んだかもしれない患者さんによく直面します。

しかし、心肺蘇生のやり方がわかってはいても慌ててしまうと実践できないことは、たとえ病院の職員でもよくあることです。もし誰かが近くで倒れていて呼びかけに答えない場合は、必ず呼吸をしているか、頸の動脈が触れるかをチェックして心肺蘇生を行えたら、大切な家族や友人を助けることができるかもしれません。

自分でも、もしそのような場面にあったときに素早く行動が出来れば良いなと思っています。

堅苦しい話ですみませんでした。でも、救急に来る重傷患者さんは病院に到着する前の対応も大事なと思う今日この頃です。では、また！

高度救命救急センター 浅沼敬一郎

EVENT



“恒例の「たなばたコンサート」が開催されました”

医事課入院第二係

教室員会主催により、7月31日(土)に外来1F待合ホールにて「たなばたコンサート」が開催されました。里見病院長の開会の挨拶で幕が開き、外来2F職員をはじめ2Fを受診している患者さんが作った短冊を下げた七夕飾りで彩られたホールでは、教職員で埋め尽くされ、楽しいひと時が流れました。院内学級の子供達の参加によるハンドベルの素敵な演奏も加わり、コン

サートに花を添えてくれました。作成していただいた「たなばたコンサート開催ポスター」は、作成したポスターに更に花飾りや金色の折り紙で作成した吹き流し等を貼り付け、立体的に作成したことで大変好評でした。コンサートを開催するにあたり、関係各所の方々には大変なご協力をいただきまして、心より厚くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



★合唱★ 仙台合唱団の皆さん



★フルート独奏★ 医事課 瀬谷裕貴子さん

INFORMATION

地域医療連携センター勉強会開催中!

今年度より、新しい試みを始めています。それが、この「地域医療連携センターから情報発信!」と題した勉強会です。医療費のこと、転院や在宅のサービスなど、テーマ別に1年かけて行います。講師は、私たち地域医療連携センターのスタッフです。

普段からよく利用している制度でも、把握している内容が曖昧だったり、実はよく分からなかったりすることがあります。この勉強会ではその内容を再確認してもらう場として活用してもらいたい、もしかしたら新しい発見があるかも、私たちスタッフの顔も覚えてもらえるかしら、等々大きく期待を持って始めました。

当初は参加人数に不安をもった開始でしたが、その心配も杞憂に終わり、毎回100名を超える多くの方に参加していただいています。私たち自身、驚きとともに身が引き締まる思いです。

今後とも、参加していただく方に分かりやすく、そして意義のある会にしていきたいと思っています。

地域医療連携センターも社会資源の一つです。今以上に活用してもらいたいと思います。

次回は、11月18日(木)「困った!こんな時はどうする? 転院について【まとめ】」です。

是非、ご参加ください。

お問い合わせ先

地域医療連携センター広報係

022-717-7618(Tel)

地域医療連携センターから、情報発信!!

～日々の業務にお戻り下さい。2010年度版～
開催時間：17時30分～18時30分 ・ 場 所：臨床小講堂

日 程	題	内 容
第1回 7月21日(水)	病院でかかるお金って? 医療費のしくみ	・保険の種類と自己負担割合 ・高額療養費、延滞いくら? ・入院と外来、医療費は違うの?等
第2回 7月28日(水)	病院でかかるお金、 少しでも減らせる? ?	・病状該当で負担軽減 (特定疾患・小児慢性特定疾患等) ・障害があることで負担軽減 (自立支援医療・障害者医療費助成等)
第3回 8月4日(水)	転院申請書、 少しでも確率の上がった転院 制度はない?	・申請手続書 ・障害程度
第4回 8月11日(水)	困った!こんな時はどうする? 転院について【病院編】	・病院に連絡があるの? ・療養型病院は転院が難しい? ・リハビリ目的の転院の決まりって?等
第5回 8月18日(水)	困った!こんな時はどうする? 転院について【施設編】	・特別養護老人ホーム ・老人保健施設 ・有料老人ホーム 等
第6回 8月25日(水)	困った!こんな時はどうする? 転院について【まとめ】	・看護からの生の声! (転院時の医療機関・連絡のやり方)
第7回 12月16日(木)	これがあれば、安心!! 在宅のサービス【制度編】	・介護保険制度 ・自立支援制度 等
第8回 1月27日(木)	これがあれば、安心!! 在宅のサービス【医療編】	・訪問看護ステーション ・医師と訪問診療の違い等
第9回 2月24日(木)	これがあれば、安心!! 在宅のサービス【まとめ】	・看護からの生の声! (訪問看護・ケアマネジャーの役割)

● 事前のお申し込みは不要です。直接会場にお越しください。
● お問い合わせ先：地域医療連携センター 内線：7618

＋ SERIES / 認定看護師紹介

認定看護師とは、「看護ケアの広がりや質の向上を図るために、日本看護協会が認めた特定の分野における熟練した看護技術と知識を有する看護師」をいいます。現在は17の認定分野があり、当院では、13分野17名の認定看護師が「実践」「指導」「相談」の役割を果たすべく活動を行っています。今回は、感染管理認定看護師の活動を紹介します。

第16回：感染管理認定看護師のご紹介

感染管理認定看護師 池田しのぶ

院内の感染管理活動の目的は、院内で起こる感染リスクを最小限に抑え、病院に関わる全ての人を感染から守ることであると思います。当院には2名の感染管理認定看護師がおり、ひとり感染担当の専従として職務し、私は重症病棟部のスタッフとして勤務しております。

当院の重症病棟部はICUとCCUからなる30床の病棟です。ここには約100名の看護スタッフが勤務しており、病院内の看護師の約10%を占めます。結構な大所帯です。重症病棟部はご存じのとおり、院内の重症患者を集中して治療・ケアする部門であるため、感染防止対策の遵守は極めて重要になります。また、多くの看護師がこの病棟での看護ケアを経験し一般病棟へ配置換をしていくため、ここでの感染防止対策の実践は一般病棟での感染対策遵守の礎になると思われます。重症病棟部より発信する感染対策の遵守行動の伝播が起こるわけです。菌を伝播させず、感染防止の知識・技術



を伝播させ実践させることが私の活動です。そのなかで力を入れ取り組んでいることがデバイスサーベイランスの実践になります。得られたデータを分析し問題点を抽出させ、改善策を計画し、部署の感染係と協同して感染の低減を図っています。継続させることで効果的な感染対策に繋がっています。

重症病棟部だけの活動に留まらず、現在では他部署の感染対策上の相談業務にも携わっています。その部署の特殊性からおこる感染対策の問題や院内感染マニュアルには載っていない小さな疑問などに対応させていただき、他部署の感染対策の強化に繋がっています。また、感染リンクナースを対象とした教育活動も行っています。

これからも、スタッフ全員で取り組む感染対策遵守の輪を広げていきたいと思っています。



感染リンクナース対象教育活動の様子

EVENT

緩和医療講演会が開催されました！

去る9月11日(土)に、臨床小講堂において、東北大学病院緩和医療講演会を開催いたしました。がん対策基本法に基づき、がん対策推進基本計画が策定され、この中で「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和医療についての基本的な知識を習得する」ことが目標として掲げられています。この講演会はその趣旨に副って、都道府県がん診療連携拠点病院として企画されたものです。

今回は、独立行政法人科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業 岡ノ谷情動情報プロジェクト 藤森麻衣子先生をお招きし、「がん医療における悪い知らせを伝える際のコミュニケーション」と題してご講演いただきました。地域医療機関や当院の医師、看護師、心理療法士等64名の皆様に参加してくださいました。

講演内容は、「準備する話を聴く・質問に回答する・共感する」などの患者-医師間の基本的なコミュニケーション技術の講義があり、続いて、悪い知らせを伝える際は、1)面談にふさわしい準備を整え、緊張を解く配慮をしつつ認識具合を知る 2)悪い知らせをわかりやすく明確に伝え、沈黙をうまく用いる 3)今後の治療、見込み、生活面への影響などについて話し合う4)要点をまとめ、患者の立場になって責任を持って診療にあたること、見捨てないことを伝える、など、起承転結の流れに沿って行うことが強調されました。また、患者-医師間のコミュニケーションが良ければ精神的苦痛を和らいだり、医療に対する満足度が高まったり、患者から重要な情報が提供される等のメリットが得られる場合も

あるとの説明がありました。

講演後の質疑応答では、「面談後になって告知の大切な部分を看護師が聞きなおされた時には?」「説明する医師以外の者が同席するのを希望する人が少なかったというアンケート結果の解釈について」など多くの方々から積極的な質問が出されましたが、ひとつひとつ丁寧に回答していただきました。今回の講演内容は、がん緩和医療に限らず、すべての医療、看護に相通する重要なテーマであり、さらにご興味のある方に対して日本サイコオンコロジー学会などで企画されているコミュニケーション技術研修会への参加をご推奨いただきました。



講演会の様子

＊ 新患日一覧 ＊

(平成22年10月1日現在)

※受付時間は午前8時30分～11時までとなっております。(皮膚科10時・眼科11時30分までとなっておりますので、ご注意ください)
 ※連携センターへの新患のお申込の際は別紙「診療予約申込書」をご参照願います。

	診療科	新患日	診療科	新患日	診療科	新患日
医 科	循環器内科	月～金	乳腺・内分泌外科	乳腺外来：月・水・木 甲状腺外来：火・金	小児科 小児腫瘍科	月～金
	感染症科	月・水・金	心臓血管外科	木・金 ※完全予約制	遺伝科	月～金 ※完全予約制
	腎・高血圧・内分泌科	水・金	整形外科	月～金 ※完全予約制	小児外科	月・木
	血液・免疫科	水・金 ※完全予約制	形成外科	月・水・金	皮膚科	月・火・水・金 受付時間(8:30～10:00)
	糖尿病代謝科	火・金	麻酔科	月・水・金 ※術前相談のみ	眼科	月～金 ※予約制 受付時間(8:30～11:30)
	消化器内科	火・金	緩和医療科	月・木 ※完全予約制	耳鼻咽喉・頭頸部外科	月・水・金
	老年科	老年科：水 もの忘れ外来：火・水 ※もの忘れ外来は完全予約制	呼吸器外科	月・水・金	肢体不自由リハビリ科	月・水・木・金
	漢方内科	月～金 ※予約制	婦人科	月～金 ※完全予約制	てんかん科	火・金 ※完全予約制
	心療内科	月・水・金 ※完全予約制	産科	I枠 セミオープン：月・火・金 II枠：月～金 ※完全予約制	内部障害リハビリ科	月・水・木・金
	呼吸器内科	月・水・木・金	泌尿器科	※新患予約 ：月・水・金 ※完全予約制	高次脳機能障害科	月・水・木・金
	腫瘍内科	月～金 ※完全予約制	神経内科	火・金	放射線治療科	月・木・金 ※完全予約制
	肝・胆・膵外科	月・金 ※完全予約制	脳神経外科	一般外来：月・木・金 てんかん外来：月・水 ※水は第1・第3のみ 脳血管性障害外来：水 脊髄・脊椎外来：水 ※完全予約制	放射線診断科	CT・MRI撮像外来：月～金 インターベンション・ 血管造影：月～木 椎体形成術：火 ※インターベンション・ 血管造影、椎体形成術は 完全予約制
	胃腸外科	胃・大腸悪性疾患：水 ※完全 炎症性腸疾患：木 ※予約制	脳血管内治療科	火・金	加齢核医学科	火・水・木 メタボケア外来：月・木
	移植・再建・ 内視鏡外科	食道外来：水・木 ※新患予約：水 血管外来：月・火 移植・肝臓外来：火・金	精神科	月・水・金 ※完全予約制	総合診療部	月～金
	歯 科	予防歯科	月～金	歯科口腔外科	火・木・金 ※金は偶数日のみ	総合歯科
矯正歯科		月～金	歯科麻酔疼痛管理科	火・木 ※完全予約制	クリーン歯科	月～金 ※予約制
小児歯科		月～金	歯周病科 (併歯内療法科)	月・火・木 ※月は奇数日のみ	顎口腔機能治療室	月・火・水
咬合機能成育室		火・木	保存修復科	月・水・金 ※月は偶数日のみ	障害者歯科治療室	火・水・金 ※予約制
インプラント外来		月～木	咬合修復科	火・金	顎口腔再建治療室	火・木
口腔診断科		月～金	咬合回復科	月・木		
歯科顎顔面外科		月・水・金 ※金は奇数日のみ	口腔機能回復科・ 高齢者歯科	月～金		

INFORMATION

● 脳神経外科の新患日変更のお知らせ

脳神経外科では平成22年9月より、患者さまの待ち時間短縮を目的として、新患外来は完全予約制となりました。先生方にはお手数をおかけしますが、患者さまをご紹介いただく際には、必ず地域医療連携センターにてご予約をお取りいただけますよう、ご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。(10月より下記の通り新患日が変わりましたのでご注意ください)
 一般外来新患：月、木、金曜日 専門外来新患：月、第1・第3水曜日＝てんかん/水曜日＝脳血管性障害/水曜日＝脊髄・脊椎

● てんかん科は平成22年8月より完全予約制となりました

ご紹介いただく医療機関におかれましては、お手数をおかけしますが、必ず事前に地域医療連携センターでご予約いただけますよう、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

＜てんかん科予約受付日時＞

新患日：火・金（祝祭日・年末年始を除く）

● 精神科よりおしらせ

11月より精神科は完全予約制となりました。予約をお取りになる際は必ず紹介状が必要となりますのでよろしくお願いいたします。

新患日：月・水・金 専門外来日：早期精神科 月

ご予約方法 ● 診療予約申込書が新しくなりました!

地域医療連携センターにFAXで診療予約申込書をご送付ください。折り返し10分程度で診療予約票を送付いたします。また、お手元に予約申込書がない場合には、ご連絡をいただければ至急FAXにてお送りいたします。※「診療予約申込書」はHPからダウンロードしていただく事も可能です。
 ※患者さまからによるお電話でのご予約はお取りできません。医療機関からの申込をお願いいたします。